



コロナ禍のアメリカにおける 政治コミュニケーションの変容

日時/ **12月4日(土)** 13:00~16:15

開催方法/ **ウェビナー(無料)、同時通訳あり**

※事前登録制



登録フォームは
[コチラ](#)

アメリカでは2020年3月に新型コロナウイルスの感染が急速に拡大し、2021年10月時点でも複数の州で、新規感染者数が増加傾向にあります。長期化するコロナ禍でアメリカの政治コミュニケーションはどのように変容したのでしょうか。この問いに対して、異なるバックグラウンドを持つ国内外の研究者が最新の研究報告を行います。

第1部 13:00~ 基調講演&研究報告

基調講演

ダイアナ・オーエン

(ジョージタウン大学コミュニケーション・文化・技術大学院教授)

「COVID時代のアメリカにおける政治コミュニケーション」

本学教員の研究報告

鈴木健(情報コミュニケーション学部教授)

「SNS時代と進む二大政党の分断」

清原聖子(情報コミュニケーション学部教授)

「選挙キャンペーンにおけるソーシャルメディア企業の影響力と強まる批判」

田中絵麻(国際日本学部専任講師)

「社会的分断とメディアリテラシー教育の役割」

兼子歩(政治経済学部専任講師)

「ルース・ベイダー・ギンズバーグの文化的アイコン化とその政治的意味」

第2部 15:15~ パネル討論

コメンテーター: トーマス・ホリハン

(南カリフォルニア大学アネンバーグ・コミュニケーション学部教授)

パネリスト: ダイアナ・オーエン、鈴木健、清原聖子、田中絵麻、兼子歩